

くされえんの詩

かんだたくみ

1

蚊よ

きみももう疲れたろ

こんな夜中に

ぼくらのほかに動くものなんてないのに

つぶすのは怖いんだ

メガネケースで捕まえて

ペランダで手放して

ぼくはもうしずかに眠りたいんだ

こんなに追いかけてまわされるのは

きみも望んでないはずだ

白壁に

見つけたとメガネケースを閉じるけれども

なにもない

ああ

いつ寝てるんだかもわからないきみのために

きょうもぼくは眠れない

ぼくらが一緒に夜を過ごすのは

もう何年目になるんだろうか

また来たんかね  
きょうもさつさと飛んでいき  
ぼくの顔を通りすぎるきみ  
きみが見えると  
春がきたんだなと思う  
それにしてもきみたちの忙しいこと  
なんて呼ばれるかもわからない小虫だけでも  
みんないったいどこにいったんだろう

きみは  
昨日のやつがどうなったか知ってるか  
蚊だか小虫だかわからないが  
ペラペラから逃がして  
暗闇に消えてったあいつは  
あいつはまだ生きてるんだろうか  
また来るんじゃないだろうか  
もう3時だ  
なんとか出てきてくれないか

きみはラジオを聴くのかい  
どこからか部屋に迷いこんだらしいが  
音を出すと  
動きがいいような気も

するけどそもそも

聴きようがない気もする

こんな小さなからだじゃ

このまえのやつは一向に出てこなかったのに

ラジオを流すたび

きみは姿をみせてくるんだな

きみのほかに一緒に聴いてくれる人がもういないのも

これは変な話だ

どうしてこうなった

いつからだだろうか

蚊を殺せなくなったのは

リスナーの投稿に笑いがおこるとき

きみは出てくる

ぼくはすかさずメガネケースに閉じ込める

そしてラジオを停止する